

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T202
授業科目名		授業形態		学科・コース	
コミュニケーションカレッジ コミュニケーション活動II		講義・演習	対面・ メディア	高度ITビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	必修	30	1	寺尾 真二
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	学校行事や就職活動など、通常の科目の学習を越えた活動を行うことで様々な経験をすることができる。				
思考力・判断力・表現力	校外での集団行動や協働作業を通じ、コミュニケーション力やチームで活動する力を身につける。				
学びに向かう力	コミュニケーションを取りながら、活動がスムーズに完了するよう自ら考えられるようになる。				
授業の概要					
毎日の挨拶や授業、さらに始業式、終業式、卒業研究発表会、就職ガイダンスといった行事などが円滑に遂行できるように割り当てられた授業である。余剰時間が発生した場合は資格試験対策の授業に割り当てることもある。					
成績評価基準					
出欠席等の状況による日常評価を対象とする。				日常評価	100%
使用テキスト・教材					
必要に応じて補助プリントを配布					
授業内容・授業計画					
			時間数		
1. オリエンテーション			4		
2. 成績発表			4		
3. 防災訓練			4		
4. 卒業研究発表会			8		
5. 進級発表			4		
6. 資格試験対策			6		
その他	関連科目				

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T207
授業科目名		授業形態		学科・コース	
キャリアディベロップメント		講義・演習	対面	高度 IT ビジネス科	
キャリアディベロップメント					
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	後期	必修	30	1	植松 甫
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	社会人として必要な一般常識・知識を学ぶ。3年生から積極的な活動ができるように、就活・社会人訓練の一環社会生活を送る上での基本的なコミュニケーションスキルと態度・考え方を知る。				
思考力・判断力・表現力	自己分析と業界分析から「働くことで実現したい」内容の共通点を見出し、自身が決めた「労働ビジョン」としてキャリアパスを構築、表現できる。				
学びに向かう力	自身の人生設計を真剣に考えることができる。				
授業の概要					
就活・社会人訓練の一環としてキャリアに関する集中講座をおこない、「就職意識向上」「グループ中の自分の役割・責務」「模擬面接会」などを通じて、スムーズな就活準備を行う。					
成績評価基準					
授業内で実施する課題、出欠席等の状況による日常評価を対象とする。				課題	80%
				日常評価	20%
使用テキスト・教材					
講師からの配布プリント類					
授業内容・授業計画					
1. キャリア集中講座		時間数	24		
2. 模擬面接			6		
その他			関連科目		
			キャリア教育、就職活動ゼミ		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T214
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ビジネスマネジメント		講義・演習	対面	高度 IT ビジネス科	
ビジネスマネジメント					
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	30	2	横田 一輝
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	マネジメントの基本と関係する基礎的専門用語を理解する。				
思考力・判断力・表現力	仕事の的確な推進と問題解決の考え方・方法を理解し、実行に移せるようになる。				
学びに向かう力	多様化する価値観やワークライフバランスの質を損なうことなく、効率的に仕事をしていくということを意識しながら学習する。				
授業の概要					
日々直面する仕事を効率的に進めて期待される成果を上げるために、マネジメントの基本を理解し、問題解決力を高めることは非常に重要である。PDCA サイクルを基本とした課題づくりと目標の設定、仕事の的確な推進と問題解決能力の知識を習得する。					
成績評価基準					
授業内で実施する課題、出欠席等の状況による日常評価を対象とする。				筆記試験	90%
				日常評価	10%
使用テキスト・教材					
産業能率大学配本テキスト：「仕事の的確な推進と問題解決」(産業能率大学)					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1. 中堅社員に期待される役割		2	11. 思考力を高める		2
2. 仕事の推進とセルフマネジメント・目標		2	12. 仕事の振り返り		2
3. 課題づくり		2	13. 仕事の改善		2
4. 目標設定		2	14. 仕事の成果を次に活かす		2
5. 計画の立案と達成手段の検討		2	15. 質疑応答		2
6. スケジュールの作成		2			
7. 仕事の遂行		2			
8. 効率を高めるタイムマネジメント		2			
9. 仕事推進のコミュニケーション		2			
10. 問題を解決する		2			
その他			関連科目		
			産業能率大学開講科目「仕事をマネジメントする」に相当する。		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T215
授業科目名		授業形態		学科・コース	
シゴトコウリツカ 仕事効率化		講義・演習	対面	高度 IT ビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	30	2	中村 仁美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	「能率10訓」とは何か、考え方や業務改善プロセスを理解して、仕事の生産性を高められる。				
思考力・判断力・表現力	会社の現状を捉え、決算書から状態を把握できるような思考力や判断力を身につける。				
学びに向かう力	「能率10訓」の定義をしっかりと理解したうえでテキストを読み進める。仕事の生産性を高めるための手段を整理する。				
授業の概要					
個人の努力が経営成果に結びつかず組織全体の生産性が問われるケースが多くなっている。 産業能率大学創業者：上野陽一が提唱した「能率10訓」を取り上げ、「組織としての生産性向上に貢献するためのマネジメント」について学習する。一部、財務会計に関する知識も学習する。					
成績評価基準					
期末に行う筆記試験、出欠席等の状況による日常評価を対象とする。				筆記試験	90%
				日常評価	10%
使用テキスト・教材					
産業能率大学配本テキスト：仕事の生産性を高めるマネジメント（産業能率大学出版部）					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1. はじめに 生産性向上はなぜ必要か		2	10. マネジメント活動と「目標の質」		2
2. 上野陽一と能率10訓		4	11. 協業メンバーとメンバーの成長		2
3. 仕事をする目的と各々の“想い”		2			
4. 生産性向上の5パターンと 貢献する人の要件		4			
5. 生産性向上と経営指標		2			
6. 決算書と経営指標、全体最適と部分最適		4			
7. 会社と部門と業務		2			
8. 業務の「見える化」と“お客様”は誰か		2			
9. 業務棚卸と業務プロセスの改善		4			
その他			関連科目		
			産業能率大学開講科目「能率10訓と仕事の生産性向上」に相当する。		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T216
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ビジネスマナー		講義・演習	対面	高度 IT ビジネス科	
ビジネスマナー					
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	30	2	根上 裕恵
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	ビジネスパーソンとしての常識・マナーを理解して、その必要性や重要性を考えることができる。				
思考力・判断力・表現力	常識・マナーを日常生活・仕事に関連させて考え、自ら行動・実践することができる。				
学びに向かう力	社会人としての常識を広く身につけられるようテキストを読み込み、内容に関して興味関心を持ち、日常生活と結びつけて知識を広げていく。				
授業の概要					
ビジネスパーソンにとって必要な社会常識やビジネスマナーの基本を学習し、実践できることを目的とする。特に新入社員・若手社員であることを意識した学習を心がける。					
成績評価基準					
期末に実施する筆記試験、出欠席等の状況による日常評価を対象とする。				筆記試験	80%
				日常評価	20%
使用テキスト・教材					
産業能率大学配本テキスト：「社会人常識マナー検定テキスト2・3級」(清水書院)					
授業内容・授業計画					
1. オリエンテーション	2	10. 電話応対	2		
2. 社会と組織	2	11. 来客応対・訪問のマナー	2		
3. 仕事と成果、一般知識	2	12. 交際業務	2		
4. 仕事の進め方	2	13. 文書の授受とファイリング	2		
5. ビジネスコミュニケーションと 職場の人間関係	2	14. 会議ととりまとめ	2		
6. 社会人にふさわしい言葉遣い (敬語)	2	15. 質疑応答	2		
7. 社会人にふさわしい言葉遣い (話し方)	2				
8. ビジネス文書	2				
9. 職場のマナー	2				
その他	関連科目				
	産業能率大学開講科目「社会人の常識とマナー」に相当する。				

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T217
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ロジカルシンキング		講義・演習	対面	高度 IT ビジネス科	
ロジカルシンキング					
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	30	2	植松 甫
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	論理的思考の概略を学習し、その内容を理解、説明できる。				
思考力・判断力・表現力	演繹法、帰納法、因果関係といった論理的思考の中核となる思考法を活用できる。MECE、ロジックツリーといった思考技術を修得し、活用できる。				
学びに向かう力	専門用語や手法について事例を通じて理解を深めるとともに、自身の事例に置き換えて理解する姿勢が求められる。				
授業の概要					
論理的な物事の考え方は現代社会において必須と言える。論理思考は複雑化した問題の解決や円滑なコミュニケーションに繋がる。技術志向の代表的なツールを深く理解し、演習を交えながら技術習得できることが望ましい。					
成績評価基準					
テキスト内容の学習を基にした課題にて評価する。					課題 100%
使用テキスト・教材					
産業能率大学配本テキスト：ロジカル思考を身につける (産業能率大学総合研究所)					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1. オリエンテーション	2	11. ロジックツリー (知識習得)	2		
2. ロジカル思考とは	2	12. ロジックツリー (理解と利用)	2		
3. 主張を展開する (ロジカルな主張)	2	13. 推論	2		
4. 主張を展開する (仮説・反証可能性)	2	14. イシューの取扱い	2		
5. 三角ロジック	2	15. 振り返り	2		
6. 演繹法	2	16. 質疑応答	1		
7. 帰納法と反証可能性	2				
8. 質疑応答	1				
9. 因果関係	2				
10. MECE の理解	2				
その他	関連科目				
	産業能率大学開講科目「考える力をつける」に相当する。				

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T218
授業科目名		授業形態		学科・コース	
カダイカイケツシュホウ 課題解決手法		講義・演習	対面	高度 IT ビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	30	2	植松 甫
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	問題とは何かを理解し、問題解決を実践していくためのプロセスや技法を身に付ける。				
思考力・判断力・表現力	自らの問題解決に向けて、認識した問題の原因追求や解決策の立案ができる。				
学びに向かう力	テキストの事例学習を通じて、現実の問題との結びつけを図りながら、問題解決の実践的な力を高めていく。				
授業の概要					
現代ビジネスは全てのビジネスパーソンに問題解決力の向上が求められている。社会生活においても例外でなく、解決するための当事者意識も必要になってくる。問題をどのように定義すればよいか、どう課題を設定するか、解決策の策定、実行・評価までの問題解決プロセスを学習する。					
成績評価基準					
期末に実施する筆記試験、出欠席等の状況による日常評価を対象とする。				筆記試験	90%
				日常評価	10%
使用テキスト・教材					
産業能率大学配本テキスト：問題発見・解決力を伸ばす (産業能率大学)					
授業内容・授業計画					
1. オリエンテーション・問題解決力の必要性	2	8. 探索型問題の課題設定、問題と課題の違い	2		
2. 問題解決とは何か	2	9. 探索型問題、課題の構造化	2		
3. 問題発見 (発生型と探索型)	2	10. フレームワークの活用	2		
4. 発生型問題の発見	2	11. 解決策の策定 (1) 論理的思考	2		
5. 探索型問題の発見	2	12. 解決策の策定 (2) 創造的思考	2		
6. 発生型問題の課題設定、問題と課題の違い	2	13. 解決策を絞り込む、実行と評価	2		
7. 発生型問題、原因分析	2	14. 振り返り・課題解決手法の活用例	2		
		15. 質疑応答	2		
その他	関連科目				
	産業能率大学開講科目「問題発見・解決力を伸ばす」に相当する。				

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T219
授業科目名		授業形態		学科・コース	
マネジメントジッセンイチ ----- マネジメント実践 I		講義・演習	対面	高度 IT ビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	30	2	横田 一輝
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	様々な分野の企業経営活動事例から先人が実践、蓄積してきたビジネス上のポイントを理解する。				
思考力・判断力・表現力	ポイントに対して市場の新たな課題解決に向けて理論的な考察ができる。				
学びに向かう力	先人たちが、現在の現実に立っている我々に何を語っているのかを考えながら学ぶことが求められる。				
授業の概要					
企業を成長させてきた創業者・企業家の活動や歴史的背景を含めた企業活動を具体的な事例から学習する。先人が経験・蓄積してきたビジネスのポイントを押さえ、経営の基本的知識を身に付ける。					
成績評価基準					
期末に実施する筆記試験、出欠席等の状況による日常評価を対象とする。				筆記試験	90%
				日常評価	10%
使用テキスト・教材					
産業能率大学配本テキスト：歴史に学ぶ経営学 (産業能率大学)					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1. オリエンテーション・企業経営の全体像	2	11. 日本における小売業の発展	2		
2. 企業家の定義と革新的行動①	2	12. 日本における製造小売業の発展	2		
3. 日本における家電業界の発展	2	13. 企業経営史、小売業の事例	2		
4. 企業経営史、家電業界の事例	2	14. 日本における IT 産業の発展	2		
5. 日本における自動車業界の発展	2	15. 質疑応答	2		
6. 企業経営史、自動車業界の事例	2				
7. 家電業界・自動車業界発展	2				
8. 企業家の定義と革新的行動②	2				
9. 日本における食品産業の発展	2				
10. 企業経営史、食品産業の事例	2				
その他	関連科目				
	産業能率大学開講科目「企業家に学ぶ経営」に相当する。				

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T220
授業科目名		授業形態		学科・コース	
シヤカイガクガイロン 社会学概論		講義・演習	対面	高度 IT ビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	後期	必修	30	2	植松 甫
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	古典から現代社会学までの学説を理解し、現代社会で生じる現象を社会学の視点から説明できる。				
思考力・判断力・表現力	社会学者たちの思考を学び、現代社会の諸問題について社会学用語を使いながら考察できる。				
学びに向かう力	社会学の基礎概念や社会問題に関する解説を、社会学の用語を用いながら自身の考えをまとめるように受講することが望ましい。				
授業の概要					
現代社会の構造と機能について、社会学の観点から再認識して、改めて問い直すことが重要である。社会学の誕生から現代社会まで、社会学者たちの学説を学び、身近な社会問題と合わせて考察する。					
成績評価基準					
テキスト内容の学習を基にした課題にて評価する。					課題 100%
使用テキスト・教材					
産業能率大学配本テキスト：社会学概論 社会の仕組みを1から学ぶ (産業能率大学出版部)					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1. オリエンテーション・社会学とは	2	11. 政治と権力	2		
2. 理論とモデル (社会の秩序)	2	12. 宗教と文化	2		
3. 理論とモデル (社会学の基礎概念)	2	13. 歴史と現代	2		
4. 個人と集団 (個人主義)	2	14. グローバリゼーションと国家	2		
5. 個人と集団 (集団の種類)	2	15. 社会秩序はいかにして可能か	2		
6. 家族と教育 (家族の歴史)	2	16. 質疑応答	1		
7. 家族と教育 (現代の家族)	2				
8. 質疑応答	1				
9. 労働と消費	2				
10. 都市と犯罪	2				
その他		関連科目			
		産業能率大学開講科目「社会学概論」に相当する。			

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T221
授業科目名		授業形態		学科・コース	
シンリガクニューモン 心理学入門		講義・演習	対面	高度 IT ビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	30	2	岡部 泰幸
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	心理学の基礎的な考え方や重要な用語を理解し、心理学とはそもそも何かを説明できる。				
思考力・判断力・表現力	心理学の基本的概念を自らの社会生活に置き換え、日常的な現象を心理学的に捉えることができる。				
学びに向かう力	各種の心理検査やアセスメントツール、心理学実験の結果について、ディスカッションを通じて積極的に理解しようとする姿勢を求める。				
授業の概要					
日常生活の中で起こる様々な現象は心理学における研究から解明することができるものである。本科目では基礎的な心理学の内容を学習し、社会生活に役立つ多様な思考を身に付ける。					
成績評価基準					
期末に実施する筆記試験、出欠席等の状況による日常評価を対象とする。				筆記試験	90%
				日常評価	10%
使用テキスト・教材					
産業能率大学配本テキスト：「アカデミックナビ 心理学」(勁草書房)					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1. 原理・研究法・歴史		4	11. 質疑応答		1
2. 学習・認知・知覚		2			
3. 発達・教育		4			
4. 社会・感情・性格		2			
5. 臨床・障害		4			
6. 神経・生理		2			
7. 統計・測定・評価		4			
8. 産業・組織		2			
9. 健康・福祉		2			
10. 犯罪・非行		3			
その他			関連科目		
			産業能率大学開講科目「心理学基礎」に相当する。		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T222
授業科目名		授業形態		学科・コース	
メンタルヘルスニューモン メンタルヘルス入門		講義・演習	対面	高度 IT ビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	30	2	中村 仁美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	ストレスに関する専門用語の内容を理解することができ、発症のサイン、ストレス原因、誤った解消法等を説明できる。				
思考力・判断力・表現力	ケーススタディを通じて、ストレスに関する身近な問題を自分のことと置き換えて、日常生活に活かすことができる。				
学びに向かう力	身近な人のストレスを受け入れ、ケアをするための正しい方法について学び、大切な相手の心に寄り添うことができる。				
授業の概要					
ストレスの仕組みを知りストレスをコントロールするための方法について学ぶ。ストレスの正体を理解し、日常のストレス対策方法を身に付けることを目的とする。また、現代社会とマッチした価値観で前向きな生き方に繋がるヒントを得る。ストレスケアと周囲のサポートに関する方法についても学ぶ。					
成績評価基準					
期末に実施する筆記試験、出欠席等の状況による日常評価を対象とする。				筆記試験	90%
				日常評価	10%
使用テキスト・教材					
産業能率大学配本テキスト：「元自衛官メンタル教官が教える心を守るストレスケア」(池田書店)					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1. ストレスを正しく知る①	2	7. 正しいストレスケア①	2		
2. ストレスを正しく知る②	2	8. 正しいストレスケア②	2		
3. 心をほぐす4つのストレスケア①	2	9. ストレスケアのケーススタディ①	2		
4. 心をほぐす4つのストレスケア②	2	10. ストレスケアのケーススタディ②	2		
5. ストレスを生み出すココロとカラダのしくみ①	2	11. 身近な人のストレスに対処する①	2		
6. ストレスを生み出すココロとカラダのしくみ②	2	12. 身近な人のストレスに対処する②	2		
		13. ストレスに惑わされない生き方①	2		
		14. ストレスに惑わされない生き方②	2		
		15. 質疑応答	2		
その他		関連科目			
		産業能率大学開講科目「ストレスとこころの健康」に相当する。			

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T251
授業科目名		授業形態		学科・コース	
プログラムゲンゴニ プログラム言語II		講義・演習	対面	高度 IT ビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	60	2	植松 甫
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	クラス概念を理解して必要なインスタンスを正しく生成できる。継承やインタフェース、多態性、カプセル化等を正しく理解している。例外を理解し、エラーハンドリングが適切に行える。				
思考力・判断力・表現力	オブジェクト指向プログラミングを自身の力で自由に表現できる。ユーザ視点を持ったプログラミングができ、自身が開発したプログラム内容を他者に表現、説明できる。				
学びに向かう力	Java プログラミング能力認定試験3級、理解力によっては2級に合格できる知識を習得することが望ましい。				
授業の概要					
Java/オブジェクト指向の本質である継承や多態性を活かしたプログラミングスキルを習得する。また、例外 (エラー) 処理といったユーザに対する重要度の高い技術を学ぶ。					
成績評価基準					
期末に実施する筆記試験、出欠席等の状況による日常評価を対象とする。				筆記試験	80%
				日常評価	20%
使用テキスト・教材					
「スッキリわかる Java 入門」 (インプレス社)					
授業内容・授業計画					
	時間数				
1. クラス型と参照	2	16. カプセル化の基礎知識			2
2. コンストラクタ	2	17. アクセス制御と他クラス参照			2
3. 継承の基礎知識	2	18. private と public の定石			2
4. 継承のセオリーとオーバーライド	2	19. getter と setter によるフィールド操作			2
5. 継承とコンストラクタ	2	20. 静的メンバと Static			2
6. 先を考えた継承	2	21. ArrayList とイテレータ			2
7. 高度な継承と複雑な理由	2	22. 例外の復習			2
8. 抽象クラス	2	23. 例外処理と Try-Catch			2
9. 抽象メソッドのオーバーライド	2	24. 例外発生と例外インスタンス			2
10. インタフェースの基礎知識	2	25. 例外発生と throw			2
11. インタフェースの実装	2	26. 復習③			2
12. 多態性と曖昧解釈	2	27. 復習④			2
13. 多態性のメリット	2	28. 課題対策①			2
14. 復習①	2	29. 課題対策②			2
15. 復習②	2	30. Java 検定対策			2
その他	関連科目				
※実務経験のある教員が担当する科目である。	プログラム言語 I、オブジェクト指向設計				

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T253
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ウェブページセイサク ----- Webページ制作		講義・演習	対面	高度 IT ビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	後期	必修	60	2	横田 一輝
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	Web サイト制作に必要なとなる HTML5、CSS3 によるコーディング方法を学習する。				
思考力・判断力・表現力	教員が提示するサンプルをもとに Web ページを作成できるようになることを目標とし、実践を通じて思考力や表現力を養う。				
学びに向かう力	単元毎に演習課題を設け、その課題のサイト制作により成績の評価を行うため、課題に取り組む積極的な姿勢を求める。				
授業の概要					
あらゆる Web 制作において、HTML5、CSS3 は必ず覚えるべき言語であり、Web 系の基礎科目として非常に重要な授業となる。本授業では、サンプルページを制作しながら実践的に言語を学ぶため、欠課数が増えると、試験の結果に大きく影響する。ブラウザによる動作確認、教材の事典を用いながら、単語の意味を理解していくことが大切である。					
成績評価基準					
授業内で実施する課題、出欠席等の状況による日常評価を対象とする。				課題	80%
				日常評価	20%
使用テキスト・教材					
HTML&CSS と Web デザインが 1 冊できちんと身につく本 (技術評論社) その他、担当教員が準備した資料を使用する。					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1. オリエンテーション		2	4. メインコンテンツ内のレイアウト		14
1-1. 授業内容説明			4-1. section の考え方		
1-2. WEB サイト制作方法の概要			4-2. レスポンシブの配置変更		
2. ボックスレイアウト		14	4-3. 演習問題 03		
2-1. 基本構造とレイアウト			5. サイト構築の手順		16
2-2. 色指定とサイズ単位			5-1. サイト制作の手順		
2-3. main 内のレイアウト			5-1. header, nav 固定と内部スクロール		
2-4. レスポンシブ化			5-2. CSS の切り替え		
2-5. 演習課題 01			5-3. JQuery について		
3. 画像、文字の配置		14	5-4. 演習問題 04		
3-1. header 部の制作基礎					
3-2. nav 部の制作基礎					
3-3. 演習問題 02					
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T260
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ネットワークエンシュウ ----- ネットワーク演習		講義・演習	対面	高度 IT ビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	後期	必修	60	2	小針 恒雄
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	Cisco シミュレーションツールである PacketTracer を使えるようになる 仮想的に Cisco 機器での基本的なネットワーク設定ができるようになる				
思考力・判断力・表現力	適切な LAN デザインができるようになる トラブルシュート対応ができるようになる				
学びに向かう力	自分で考え、問題を解決することができるようになる				
授業の概要					
授業はテキスト、配布資料を中心に行う。 実機に触れ学習を進めるため、積極的に参加すること。					
成績評価基準					
授業内で実施する課題および最終課題、出欠席等の状況による日常評価を対象とする。				課題	80%
				日常評価	20%
使用テキスト・教材					
ネットワーク超入門 (技術評論社)、配布プリント、PacketTracer、Linux を搭載した仮想マシン					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1. 実習環境構築 (Linux)		2	12. RIP		4
2. ネットワークコマンド		2	13. インターネットへの接続		10
3. 基本ネットワーク構築と演習		6	14. 総合演習		10
4. パケットダンプ		4			
5. エミュレート環境の準備 (Cisco)		2			
6. Cisco 機器設定の基本		4			
7. MAC アドレスとスイッチ		2			
8. VLAN		2			
9. L3 スイッチ		4			
10. ルーティング		4			
11. 期末課題		4			
その他			関連科目		
※積極的な演習参加が望ましい。 ※実務経験のある教員が担当する科目である。			ネットワーク基礎、ネットワーク応用		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T261
授業科目名		授業形態		学科・コース	
セキュリティヒョウカエンシュウ セキュリティ評価演習		講義・演習	対面	高度 IT ビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	後期	必修	30	2	岡部 泰幸
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	安全確保支援士レベルの情報セキュリティ知識・技術を習得する。				
思考力・判断力・表現力	実際にどのようにセキュリティ対策を行うか、様々な観点で考えられるようになる。				
学びに向かう力	既存の技術だけでなく、常に世の中の動向を把握しセキュリティの観点で物事を考えられるようになる。				
授業の概要					
Web アプリケーション、サーバ・デスクトップアプリケーション、ネットワーク、サーバの脆弱性について学習する。演習ツールとして IPA 提供の脆弱性体験学習ツール AppGoat を使用して理解を深める。					
成績評価基準					
授業内で実施する課題および最終課題による評価を対象とする。					課題 100%
使用テキスト・教材					
IPA 提供 脆弱性体験学習ツール AppGoat					
授業内容・授業計画					
			時間数		
1. 情報セキュリティ知識の復習			2		
2. クロスサイトスクリプティング			6		
3. ディレクトリトラバーサル			4		
4. SQL インジェクション			4		
5. セッション管理の不備			4		
6. クロスサイトリクエストフォージェリ			6		
7. 最終課題			4		
その他			関連科目		
			情報セキュリティ基礎、企業インシデント総論		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T262
授業科目名		授業形態		学科・コース	
プログラムゲンゴサン プログラム言語Ⅲ		講義・演習	対面	高度 IT ビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	後期	必修	60	2	寺尾 真二
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	C#言語を扱えるようになる。C#でのWindows アプリ開発方法を学習する。C#プログラミングを通してオブジェクト指向開発の理解を深める。				
思考力・判断力・表現力	素材 (API やコントロール) を活用してどんなプログラムが作れるかイメージできるようにする。実現したいプログラムから逆算し、必要なAPIを調査しアプリ開発ができるようになる。				
学びに向かう力	イメージを形にできる自信と楽しさを知りプログラミングの向上心を持つ。				
授業の概要					
VisualC#を用いたプログラム開発実践を行う。テーマに沿ってプログラムを作成し、API (Windows フォームのコントロール) の用途を実体験の中で理解し、合わせてプログラミングの楽しさや興味を感じる機会とする。授業終盤では各自でテーマを決めて制作課題に取り組み、最後に発表を行う。					
成績評価基準					
授業内で実施する課題 (発表を含む)、出欠席等の状況による日常評価を対象とする。制作課題の内容 (発表内容含む) と出欠席状況による日常評価とする。				課題	80%
				日常評価	20%
使用テキスト・教材					
・改訂版 ゴールからはじめるC# (技術評論社)					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1. VisualC#とはなんだろう	2	8. 乗り物の競争ゲームで継承を理解しよう	6		
2. 名前を表示してコントロールとイベントを理解しよう	2	9. 神経衰弱で配列を理解しよう	6		
3. 消費税を計算して変数と演算子を理解しよう	2	10. モグラ叩きでポリモーフィズムを理解しよう	6		
4. 成績を判定して選択制御とメソッドを理解しよう	4	11. 予告編作成でファイル入出力を理解しよう	6		
5. 商を小数点以下 50 桁まで求めて繰り返し制御を理解しよう	4	12. 制作課題 (設計、製作、発表)	12		
6. アラーム&タイマーでオブジェクト指向の基本を理解しよう	4				
7. 成績判定を作り替えてカプセル化を理解しよう	6				
その他	関連科目				
※実務経験のある教員が担当する科目である。	プログラム言語Ⅰ、プログラム言語Ⅱ、オブジェクト指向、アルゴリズム				

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T266
授業科目名		授業形態		学科・コース	
サーバキソ サーバ基礎		講義・演習	対面	高度 IT ビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	60	2	寺尾 真二
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	LinuC レベル1 101 試験の知識を得る。LinuC レベル1 101 試験相当のサーバ操作ができるようになる。				
思考力・判断力・表現力	必要な情報を調べ、習得することができる。課題に対し、どのようなアプローチで解決できるかを考え、行動できるようになる。				
学びに向かう力	資格取得に向け、忍耐強く努力することができるようになる。				
授業の概要					
LinuC レベル1 101 試験に合格に向けての学習を行う。必須受験である。授業では101 試験の範囲を、実際にLinux を搭載した仮想マシンを利用しながら勉強する。章ごとに章末問題や、LinuC 公式問題をこなす時間をとり、資格取得に向けた準備をする。					
成績評価基準					
基本的にはLinuC 本試験の結果で評価する。本試験の結果によっては、日頃の課題、LinuC 模擬試験の結果を成績に入れる。				筆記試験	90%
				課題	10%
使用テキスト・教材					
最短突破 LinuC レベル1 バージョン 10.0 合格教本 [101 試験, 102 試験対応] 改訂新版 (技術評論社)					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1. Linux の基本・インストール・起動・接続	2	13. ストリーム、パイプ、リダイレクトの利用	2		
2. 仮想マシン・コンテナの概念と利用	2	14. 正規表現を利用したテキストファイル検索	2		
3. ブートプロセスと systemd	4	15. 基本的なファイル編集の実行	2		
4. プロセスの生成・監視・終了	2	16. LinuC101 3 章練習問題	4		
5. デスクトップ環境の利用	2	17. apt コマンドによるパッケージ管理	2		
6. LinuC101 1 章練習問題	4	18. Debian パッケージ管理	2		
7. 基本的なファイル管理の実行	2	19. yum コマンドによるパッケージ管理	2		
8. ファイルの所有者とパーミッション	2	20. LinuC101 4 章練習問題	2		
9. ファイルの配置と検索	4	21. ハードウェアの基本知識	2		
10. LinuC101 2 章練習問題	2	22. HDD/SSD のレイアウト	2		
11. コマンドラインの操作	2	23. ファイルシステムの作成・管理	2		
12. フィルタを使ったテキストストリーム処理	2	24. LinuC101 5 章練習問題	2		
		25. 模擬試験①	2		
		26. 模擬試験②	2		
その他		関連科目			
※単元ごと演習課題を実施する。 ※実務経験のある教員が担当する科目である。		サーバ応用、サーバ演習			

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T268
授業科目名		授業形態		学科・コース	
サーバオウヨウ サーバ応用		講義・演習	対面	高度 IT ビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	後期	必修	60	2	寺尾 真二
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	LinuC レベル1 102 試験の知識を得る。 LinuC レベル1 102 試験相当のサーバ操作ができるようになる。				
思考力・判断力・表現力	必要な情報を調べ、習得することができる。課題に対し、どのようなアプローチで解決できるかを考え、行動できるようになる。				
学びに向かう力	資格取得に向け、忍耐強く努力することができるようになる。				
授業の概要					
LinuC レベル1 102 試験に合格に向けての学習を行う。必須受験である。授業では102 試験の範囲を、実際にLinux を搭載した仮想マシンを利用しながら勉強する。章ごとに章末問題や、LinuC 公式問題をこなす時間を取り、資格取得に向けた準備をする。					
成績評価基準					
基本的にはLinuC 本試験の結果で評価する。本試験の結果によっては、日頃の課題、LinuC 模擬試験の結果を成績に入れる。				筆記試験	90%
				課題	10%
使用テキスト・教材					
最短突破 LinuC レベル1 バージョン10.0 合格教本 [101 試験, 102 試験対応] 改訂新版 (技術評論社)					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1. Linux 操作の復習	2	13. システムのログ	2		
2. シェル環境のカスタマイズ	2	14. LinuC102 9章練習問題	2		
3. シェルスクリプト	8	15. セキュリティ管理業務	2		
4. LinuC102 6章練習問題	4	16. ホストのセキュリティ設定	2		
5. インターネットプロトコルの基礎	2	17. 暗号化のデータ保護	2		
6. 基本的なネットワーク構成	2	18. クラウドセキュリティ	2		
7. 基本的なネットワークの問題解決	4	19. LinuC102 10章練習問題	2		
8. LinuC102 7章練習問題	2	20. オープンソースの文化	2		
9. アカウント管理	2	21. LinuC102 11章練習問題	2		
10. ジョブ管理	2	22. 模擬試験①	4		
11. LinuC102 8章練習問題	2	23. 模擬試験②	4		
12. システム時刻の保守	2				
その他		関連科目			
※積極的な演習参加が望ましい。 ※実務経験のある教員が担当する科目である。		サーバ基礎、サーバ演習			

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T273
授業科目名		授業形態		学科・コース	
システムセイサクエンシュウ システム制作演習		講義・演習	対面	高度 IT ビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	60	3	植松 甫 横田 一輝
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	Java を使ったシステム開発を学習する。 データベース連携を体験し、システムの基本構成を中身まで理解する。 要件理解およびシステム設計から開発まで、一連の作業を体験する。				
思考力・判断力・表現力	要件定義の大切さを理解し、顧客要求事項を正しく判断できる。 顧客が求めているものを実現するために必要な内容・技術を考え、実現するための環境を整えて、顧客の前で要求事項を 100% 表現できる。				
学びに向かう力	顧客要求を実現することの難しさを知り、要求を正しく理解するヒアリング力と判断力、プログラミングだけでなくチームで開発を行うコミュニケーション能力や協調性を養う。				
授業の概要					
授業は専用の開発テキストと演習を中心に行い、顧客検索システムを完成させてプレゼンを行う。 使用する技術は Java 言語と MySQL および接続ドライバと多岐に渡るため、これまで学習してきた知識・技術を総合的に組み立てる力が求められる。					
成績評価基準					
授業内に実施する制作課題 (プレゼンテーションの評価も含む)、出欠席等の状況による日常評価を対象とする。				課題	80%
				日常評価	20%
使用テキスト・教材					
「Java 開発演習」インフォテックサーブ、教員オリジナルプリント					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1. システム概要説明		4	10. 結合テスト		2
2. 要件定義まとめ、ユースケース図		4	11. 適格性確認テスト、検収		2
3. 入出力設計、DB設計		4	12. 振り返り、成果発表準備		4
4. クラス概要設計		6	13. 成果発表会		2
5. シーケンス図、その他ダイアグラム		6			
6. 詳細クラス図、内部外部レビュー		6			
7. 結合テスト仕様書		2			
8. コーディング		14			
9. 単体テスト、デバッグ		4			
その他	関連科目				
※実務経験のある教員が担当する科目である。	プログラム言語Ⅰ、プログラム言語Ⅱ、データベース応用				

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T277
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ジョウホウトクベツコウギニ 情報特別講義II		講義	対面	高度ITビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	必修	240	8	植松 甫、寺尾 真二 岡部 泰幸、横田 一輝
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、高度情報技術者試験、Javaプログラミング能力認定試験等において合格を目指す。				
思考力・判断力・表現力	これまで学んだ様々な科目の知識をまとめながら、知識を習得する。				
学びに向かう力	合格するために忍耐強く努力することができるようになる。				
授業の概要					
対策授業は決して楽な勉強ではない。しかし、資格合格を目指すという強い意志を持って勉強に臨んでほしい。また、本講義はこれまでに学んだすべての科目の総まとめの意味を持っておりそれぞれの科目の知識がしっかり繋がることで、より深く理解できることを期待する。					
成績評価基準					
出欠席および合格を目指す姿勢・学習意欲を踏まえた日常評価を対象とする。				日常評価	100%
使用テキスト・教材					
各種情報技術者試験問題集					
授業内容・授業計画					
1. 問題演習・対策授業			時間数 240		
その他			関連科目		
			情報特別講義 I		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T303
授業科目名		授業形態		学科・コース	
コミュニケーションカツドウサン コミュニケーション活動Ⅲ		講義・演習	対面・ メディア	高度 IT ビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	通年	必修	30	1	寺尾 真二
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	学校行事や就職活動など、通常の科目の学習を越えた活動を行うことで様々な経験をすることができる。				
思考力・判断力・表現力	校外での集団行動や協働作業を通じ、コミュニケーション力やチームで活動する力を身につける。				
学びに向かう力	コミュニケーションを取りながら、活動がスムーズに完了するよう自ら考えられるようになる。				
授業の概要					
毎日の挨拶や授業、さらに始業式、終業式、卒業研究発表会、就職ガイダンスといった行事などが円滑に遂行できるように割り当てられた授業である。余剰時間が発生した場合は資格試験対策の授業に割り当てることもある。					
成績評価基準					
出欠席等の状況による日常評価を対象とする。				日常評価	100%
使用テキスト・教材					
必要に応じて補助プリントを配布					
授業内容・授業計画					
			時間数		
1. オリエンテーション			4		
2. 成績発表			4		
3. 防災訓練			4		
4. 卒業研究発表会			8		
5. 進級発表			4		
6. 資格試験対策			6		
その他	関連科目				

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T308
授業科目名		授業形態		学科・コース	
シュウショクカツドウゼミ 就職活動ゼミ		講義・演習	対面	高度ITビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	前期	必修	30	1	吉田 文昭 寺尾 真二
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	SPI対策として言語、非言語の知識を改めて身に付ける。 就活および報告に用いるサービス・システムの使い方を身に付ける。				
思考力・判断力・表現力	就職活動時に企業から出されるSPI試験に臨むための準備を整えていく。 就活用のツールを用いて自身でスムーズに動ける。				
学びに向かう力	就職活動結果を出すために必要な事を自ら考えられるようになる。				
授業の概要					
就職活動での採用試験としてのSPI試験をクリアする事を目的として、対策のため知識確認のテスト実施や問題集実施を行っていく。就職活動時に使用するサービスの登録および学校内での就活報告ツール(就職ポータル)の使い方を理解し、就活開始時の情報収集も行う。					
成績評価基準					
積極性および出席等の状況による日常評価を対象とする。				日常評価	100%
使用テキスト・教材					
2028年度版 7日できる! SPI必勝トレーニング					
2028年度版 7日できる! SPI[頻出]問題集					
授業内容・授業計画					
			時間数		
1. 実践テスト (テキスト:SPI 必勝トレーニングから)			10		
2. 模擬テスト (テキスト:SPI 必勝トレーニングから)			2		
3. 問題集実施 (テキスト:SPI[頻出]問題集から)			10		
4. 模擬テスト (テキスト:SPI[頻出]問題集から)			2		
5. 就職ポータル説明			2		
6. 就活用サービス登録および情報収集			4		
その他			関連科目		
			キャリア教育、キャリアディベロップメント		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T309
授業科目名		授業形態		学科・コース	
コミュニティサービス		講義・演習	対面	高度ITビジネス科	
コミュニティサービス					
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	後期	必修	30	1	寺尾 真二
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	様々な立場の人達とコミュニケーションをとりながら、活動目的を達成することができるようになる。				
思考力・判断力・表現力	自分のスキルを社会においてどのように活かすことができるかを考えられるようになる。				
学びに向かう力	自ら考え、どのように行動すべきか理解することができるようになる。				
授業の概要					
地域社会に愛される技術者となるため、地域社会への貢献活動、奉仕活動などを通じて、社会人基礎力を養う。					
成績評価基準					
社会貢献活動を行うための課題および参画具合を日常評価として判断する。				課題	50%
				日常評価	50%
使用テキスト・教材					
特になし					
授業内容・授業計画					
1. 地域貢献活動準備			時間数	20	
2. 地域貢献活動				10	
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T323
授業科目名		授業形態		学科・コース	
マネジメントジッセンニ ----- マネジメント実践II		講義・演習	対面	高度 IT ビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	前期	必修	30	2	横田 一輝
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	土光氏の経営思想を理解し、マネジメントのポイントを具体的につかむことを目指す。				
思考力・判断力・表現力	様々な経営者の言葉の意味を理解し、職場や日常生活における行動の改善につなげることを目指す。				
学びに向かう力	理解した内容を日常の仕事や生活に置き換えて解釈し、今後の自身の行動変革を意識して受講することを望む。				
授業の概要					
実業家の土光敏夫氏の名言から経営哲学を理解し、マネジメントの真髄をつかんでいくとともに、現代でも変わらぬリーダーとしての行動指針を学習する。					
成績評価基準					
期末に実施する筆記試験、所感レポート作成課題、出席状況による日常評価を評価対象とする。				筆記試験	60%
				課題	20%
				日常評価	20%
使用テキスト・教材					
産業能率大学配本テキスト：新訂・経営の行動指針 (産業能率大学出版部)					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1. イントロダクション		2	11. 語録 71～80 解説・グループ討議		2
2. 語録 1～10 解説・グループ討議		2	12. 所感レポート作成 (語録 51～75)		2
3. 語録 11～20 解説・グループ討議		2	13. 語録 81～90 解説・グループ討議		2
4. 語録 21～30 解説・グループ討議		2	14. 語録 91～100 解説・グループ討議		2
5. 所感レポート作成 (語録 1～25)		2	15. 所感レポート作成 (語録 76～100)		2
6. 語録 31～40 解説・グループ討議		2			
7. 語録 41～50 解説・グループ討議		2			
8. 所感レポート作成 (語録 26～50)		2			
9. 語録 51～60 解説・グループ討議		2			
10. 語録 61～70 解説・グループ討議		2			
その他	関連科目				
	産業能率大学開講科目「経営の行動指針 (土光敏夫語録に学ぶ)」に相当する。				

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T324
授業科目名		授業形態		学科・コース	
マネジメントセンリヤク ----- マネジメント戦略		講義	対面	高度 IT ビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	前期	必修	30	2	植松 甫
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	マネジメント戦略の基本的な考え方やキーワードについて理解できる。				
思考力・判断力・表現力	マネジメント戦略の大まかなフレームワークを説明することができる。				
学びに向かう力	現実の動きと照らし合わせながら、各企業のマネジメント戦略の基本を推察し、自身の意見を述べることができる。				
授業の概要					
マネジメント戦略が企業経営上どのような意義をもつのかを理解するとともに、具体的な事例に触れながら戦略を概説し、戦略的発想をもって実践に取り組める知識・スキルを習得する。					
成績評価基準					
期末に実施する筆記試験、出欠席の状況による日常評価を対象とする。				筆記試験	90%
				日常評価	10%
使用テキスト・教材					
産業能率大学配本テキスト：Strategy Essence (産業能率大学)					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1. 現代企業と経営戦略		4	10. イノベーションと新しい戦略		2
2. 成長戦略／事業領域とライフサイクル		2	11. 機能別戦略		2
3. 成長戦略／多角化とグローバル化		2	12. 経営戦略の組織への展開		2
4. 成長戦略／事業開発と事業撤退		2	13. 経営戦略のPDCA		2
5. 成長戦略に関する事項のまとめ		2			
6. 戦略に関する総合的グループワーク		4			
7. 競争戦略／外部環境分析		2			
8. 競争戦略／競争回避とスピード経営		2			
9. 競争戦略に関する事項のまとめ		2			
その他	関連科目				
	産業能率大学開講科目「経営戦略論」に相当する。				

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T325
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ビジネスカイケイ ビジネス会計		講義・演習	対面	高度ITビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	後期	必修	30	2	中村 仁美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	決算書の構造を的確に理解し、経営活動と決算書の関係性を理解したうえで、経営指標から会社の経営状況や業界特性について理解できる。				
思考力・判断力・表現力	会計に関する知識を活用し、会社が進むべき方向性や戦略の違いで決算書がどのように変化するのかを考えて読み解く力を身につける。				
学びに向かう力	なぜ会計スキルを身につける必要があるのか把握したうえで、学習した内容を会社で働く人として必要なスキルへと結びつける姿勢で臨む。				
授業の概要					
会計スキルを持って会社の経営状況を把握し、問題点把握や改善策の検討を行う力を身につける。会計用語や決算書の構造を理解することとどまらず、経営分析に必要な会計知識の習得を目指す。					
成績評価基準					
期末に実施する筆記試験、出欠席等の状況による日常評価を対象とする。				筆記試験	90%
				日常評価	10%
使用テキスト・教材					
産業能率大学配本テキスト：会計思考力ー会社がわかるノウハウ（産業能率大学出版部）					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1. 会計思考力が必要な理由		2	10. 新規事業を立ち上げる②		2
2. 会計思考力を高める		2	11. 景気の影響		2
3. 経営活動を数値化する		2	12. ビジネスモデルチェンジ①		2
4. 決算書を読む①		2	13. ビジネスモデルチェンジ②		2
5. 決算書を読む②		2	14. 企業研究①		2
6. 経営活動と経営指標の関係		2	15. 企業研究②		2
7. 会社のビジネスモデルを探る①		2			
8. 会社のビジネスモデルを探る②		2			
9. 新規事業を立ち上げる①		2			
その他	関連科目				
	産業能率大学開講科目「会計思考力」に相当する。				

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T326
授業科目名		授業形態		学科・コース	
プロジェクトファイナンス		講義・演習	対面	高度 IT ビジネス科	
プロジェクトファイナンス					
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	前期	必修	30	2	植松 甫
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	実際企業の経営活動や経営者の意思決定について、ファイナンス思考の観点から理解できる。				
思考力・判断力・表現力	会計とファイナンスの基礎知識を理解したうえで、ファイナンス思考の特徴を説明できる。				
学びに向かう力	会計とファイナンスの基礎とポイントを押さえながら、授業進度に合わせて効率的・効果的にテキストを理解しながら読み進める。				
授業の概要					
本科目では、目先の業績だけでなく、将来的に稼ぐと期待できるお金の総額を最大化しようとするファイナンス思考の本質を理解するとともに、長期志向・未来志向で価値を高める戦略的発想を磨くことを目指す。					
成績評価基準					
期末に実施する筆記試験、出欠席の状況による日常評価を対象とする。				筆記試験	90%
				日常評価	10%
使用テキスト・教材					
産業能率大学配本テキスト：ファイナンス思考 (ダイヤモンド社)					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1. PL 脳とは		2	10. 高度経済成長と日本的経営		2
2. PL 脳がもたらす本質的な問題		2	11. 進む役員の高齢化		2
3. ファイナンス思考とは		2	12. 間接金融中心の金融システム		2
4. ファイナンス思考を活かした経営事例		6	13. 企業情報の開示ルール		2
5. 売上至上主義		2			
6. 利益至上主義		2			
7. キャッシュフローの軽視		2			
8. バリュウの軽視		2			
9. 短期主義		2			
その他	関連科目				
	産業能率大学開講科目「ファイナンス思考」に相当する。				

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T327
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ボキニ 簿記Ⅱ		講義・演習	対面	高度 IT ビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	前期	必修	30	2	中村 仁美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	複式簿記の基本構造を理解し、日商簿記3級の範囲の仕訳が一通り作成できる。				
思考力・判断力・表現力	総勘定元帳・試算表・精算表・財務諸表の特長と仕組みを理解し、日商簿記3級の本試験問題を解く力を身につける。				
学びに向かう力	各単元の確認問題に取り組み、解説を確かめながら間違えた理由を自ら追究し、自己理解を深める学習姿勢が望ましい。				
授業の概要					
簿記Ⅰで学習した知識を基礎とし、日商簿記検定3級の合格レベルの知識を身につける科目である。受験対策テキストを使用し、複式簿記の基礎的な考え方を一通り理解し、試験合格に必要な知識の習得を目指す。					
成績評価基準					
期末に実施する筆記試験、出欠席等の状況による日常評価を対象とする。				筆記試験	80%
				日常評価	20%
使用テキスト・教材					
産業能率大学配本テキスト：『みんなが欲しかった！簿記の教科書 日商3級 商業簿記』（TAC 出版）					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1. 簿記の基礎		2	10. 決算手続Ⅰ		2
2. 商品売買		2	11. 決算手続Ⅱ		4
3. 現金預金		2	12. 決算手続Ⅲ		2
4. 手形と電子記録債権		1	13. 質疑応答		2
5. 有形固定資産		1			
6. その他の取引		4			
7. 帳簿		4			
8. 試算表		2			
9. 伝票と仕訳日計表		2			
その他			関連科目		
			産業能率大学開講科目「簿記3級をめざす」に相当する。		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T328
授業科目名		授業形態		学科・コース	
マーケティングロン マーケティング論		講義	対面	高度 IT ビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	後期	必修	30	2	植松 甫
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	マーケティングの基本的な知識と基本的用語の意味を理解し、説明できる。				
思考力・判断力・表現力	環境分析・市場選定から、マーケティング・ミックスまで、それぞれの状況場面を考えながら、最適な判断および戦略が選択できる。				
学びに向かう力	現代市場の特徴を活きた教材とし、様々なシーンを想定してどのようにマーケティング戦略を駆使するか、どのように現実に役立てるのかを考えながら学習する。				
授業の概要					
マーケティングは、「モノを売る仕組み」といわれるが、相互作用しながら、価値を創造する活動でもある。その活動は、企業と顧客、病院と患者、学校と生徒など、歩み寄りで築くどの関係性でもいえることである。本科目では、マーケティングの基本的な内容とその体系を把握できるようになることを狙いとする。					
成績評価基準					
期末に実施する筆記試験、出欠席等の状況による日常評価を対象とする。				筆記試験	80%
				日常評価	20%
使用テキスト・教材					
産業能率大学配本テキスト：Marketing Essence (産業能率大学)					
授業内容・授業計画					
			時間数		
1.	イントロダクション		2		
2.	マーケティング環境分析		4		
3.	ターゲット市場の選定		4		
4.	データ分析		2		
5.	商品戦略		4		
6.	価格戦略		4		
7.	流通戦略と役割		4		
8.	コミュニケーション戦略		2		
9.	コミュニケーション・ミックス各論		2		
10.	振り返りグループワーク		2		
その他			関連科目		
			産業能率大学開講科目「マーケティング論」に相当する。		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T329
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ヒューマンマネジメント		講義	対面	高度 IT ビジネス科	
ヒューマンマネジメント					
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	前期	必修	30	2	植松 甫
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	人材マネジメントの枠組みやHRMの制度と施策を理解し、説明できる。				
思考力・判断力・表現力	組織内の人間行動を理解し、HRMに関する様々な概念や考え方に基づいた人材マネジメントの思考・判断ができる。				
学びに向かう力	経営資源の一つがヒトであること、その経営資源を最大限活かすために、あらゆる人事戦略がなされていることを理解できる。				
授業の概要					
ヒューマンマネジメントとは、組織が経営目的を達成するために、人材を育成・活用する仕組みをつくり、運用していく活動全般のことである。企業活動における人的資源管理(HRM)に加え、組織内の人間行動にも焦点を当て、ワークライフバランスや次世代リーダー育成などの課題についても理解を深める。					
成績評価基準					
期末に実施する筆記試験、出欠席の状況による日常評価を対象とする。				筆記試験	90%
				日常評価	10%
使用テキスト・教材					
産業能率大学配本テキスト：HRM Essence (産業能率大学)					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1. HRMの全体像		4			
2. 制度としてのHRM		4			
3. 人材の育成		4			
4. リーダーシップ		4			
5. 集団と組織のダイナミズム		4			
6. 個人行動の基礎		3			
7. キャリア		3			
8. 人材マネジメントの課題とこれから		3			
9. 質疑応答		1			
その他		関連科目			
		産業能率大学開講科目「人材マネジメント論」に相当する。			

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T330
授業科目名		授業形態		学科・コース	
カンサロンニューモン 監査論入門		講義・演習	対面	高度 IT ビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	後期	必修	30	2	吉田 武
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	会計監査の役割と機能および金融商品取引法と会計法に基づく会計監査制度の全体像が理解できる。				
思考力・判断力・表現力	実際の会計監査のプロセスおよび監査意見等について考えを整理し、監査と会計学との関係を考察できる。				
学びに向かう力	会計に関する金融商品取引法と会社法の規定する財務内容開示制度に関心を持ち、会計監査に対してより多くの理解を得ようとする。				
授業の概要					
企業の経営者が作成した財務諸表が適正に表示されているか否かに関して、利害関係者に報告する会計監査の役割と機能、金融商品取引法と会社法に基づく会計監査制度、実際の会計監査のプロセスと監査意見等について、体系的な学習を行い、監査に関する基礎的な知識を学ぶ。					
成績評価基準					
期末に実施する筆記試験、出欠席等の状況による日常評価を対象とする。				筆記試験	80%
				日常評価	20%
使用テキスト・教材					
産業能率大学配本テキスト：「監査論テキスト」（中央経済社）					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1. 会計監査とその基本的役割	2	10. 会計監査と不正への対応	2		
2. 会計監査の現代的機能	2	11. 監査意見と監査報告書	2		
3. 金融商品取引法に基づく会計監査制度	2	12. 監査意見の種類と諸問題	2		
4. 会社取引法に基づく会計監査制度	2	13. 期中レビュー	2		
5. 職業監査と監査基準ならびに職業倫理	2	14. 内部統制監査	2		
6. 会計監査の進め方1 リスク・アプローチ	1	15. 特別目的の財務諸表の監査	2		
7. 会計監査の進め方2 監査計画	2	16. 監査の品質管理	2		
8. 会計監査の進め方3 リスク評価と 監査手続	1				
9. 会計監査の進め方4 監査の完了まで	2				
その他	関連科目				
	産業能率大学開講科目「監査論入門」に相当する。				

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T331
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ケイエイカンリカイケイ 経営管理会計		講義・演習	対面	高度ITビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	前期	必修	30	2	植松 甫
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	コスト・マネジメントとは何かを理解し、原価削減のためのスキルを身につける。				
思考力・判断力・表現力	原価削減のためのスキルを活用し、利益計画のための意思決定問題を解く思考・判断力を身につける。				
学びに向かう力	意思決定・業績評価・事業価値や企業価値の評価を目的とする管理会計の領域に対し、ビジネスパーソンとして意欲的に学ぶ。				
授業の概要					
日常業務の改善や意思決定を行うための管理会計について、原価の仕組みやコスト・マネジメントの手法、利益のシミュレーション方法等を具体的な事例を用いながら学び、採算性やコスト意識を身につける。					
成績評価基準					
期末に実施する筆記試験、出欠席の状況による日常評価を対象とする。				筆記試験	90%
				日常評価	10%
使用テキスト・教材					
産業能率大学配本テキスト：「管理会計の基本」がすべてわかる本 第2版 (秀和システム)					
授業内容・授業計画					
			時間数		
1. 管理会計とは何か			2		
2. 意思決定			4		
3. CVP分析			4		
4. 固定分解			2		
5. 投資の評価			6		
6. コスト・マネジメント			4		
7. 業績評価			4		
8. バランス・スコアカード			4		
その他			関連科目		
			産業能率大学開講科目「経営管理会計」に相当する。		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T332
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ケイエブンセキ 経営分析		講義・演習	対面	高度 IT ビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	後期	必修	30	2	長田 尚人
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	企業における経営分析の理論を理解し、経営分析の手法を習得できる。				
思考力・判断力・表現力	経営分析手法を用いて、企業業績の良否について考え、判断し、説明ができる。				
学びに向かう力	企業の問題点を見極め、企業の財務潜在能力を明らかにするため、理論や手法を活用しようとする姿勢を求める。				
授業の概要					
経営分析は、財務諸表を基に収益性分析、安全性分析、生産性分析等を行い、企業業績の良否を測定し、企業の評価をする手法である。この経営分析の情報源として必要な財務諸表の理論と構造を理解し、経営分析手法を習得することを目指す。					
成績評価基準					
期末に実施する筆記試験、出欠席の状況による日常評価を対象とする。				筆記試験	90%
				日常評価	10%
使用テキスト・教材					
産業能率大学配本テキスト：新版 経営分析の基本（日本実業出版社）					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1. ガイダンス・事前学習確認テスト		2	9. 損益分岐点分析 損益分岐点の比較		2
2. 貸借対照表		2	10. 損益分岐点分析 採算計算と原価		2
3. 損益計算書		2	11. 損益分岐点分析 損と儲けの分岐点		2
4. 安全性の分析		2	12. 損益分岐点分析の活用		2
5. 収益性の分析 総資本経常利益率と売上		2	13. キャッシュ・フロー分析 資金調達		2
6. 収益性の分析 総資本回転率		2	14. キャッシュ・フロー分析 資金繰り		2
7. 損益分岐点分析 損益分岐点の求め方		2	15. キャッシュ・フロー分析 予算		2
8. 質疑応答		1	16. 質疑応答		1
その他			関連科目		
			産業能率大学開講科目「経営分析」に相当する。		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T347
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ジョウホウセキュリティマネジメント 情報セキュリティマネジメント		講義	対面	高度ITビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	後期	必修	30	2	横田 一輝
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	情報セキュリティのマネジメント関連に関する知識を習得し、国家試験において合格を目指す。				
思考力・判断力・表現力	これまで学んだ様々な科目の知識をまとめながら、状況に応じて必要な知識を思考し、正当を判断することができる。				
学びに向かう力	国家資格に合格するモチベーションを保ち、努力することができる。				
授業の概要					
情報セキュリティの基礎、管理、対策を学習し、情報セキュリティ関連のホームページ（IPA等）を参照しながら、最新の情報セキュリティに関する事象を理解する。					
成績評価基準					
期末に実施する筆記試験、出欠席等の状況による日常評価を対象とする。				筆記試験	90%
				日常評価	10%
使用テキスト・教材					
出るとこだけ！ 情報セキュリティマネジメント テキスト&問題集 (翔泳社)					
授業内容・授業計画					
			時間数		
1. サイバー攻撃手法			4		
2. 暗号と認証			6		
3. 情報セキュリティ管理			6		
4. 情報セキュリティ対策			4		
5. 情報セキュリティ製品			6		
6. セキュリティ関連法規			4		
7. テクノロジーに関する項目			4		
8. マネジメントに関する項目			4		
9. ストラテジに関する項目			4		
10. 情報セキュリティマネジメント科目B			18		
その他			関連科目		
			セキュリティ評価演習、情報特別講義Ⅰ、 情報特別講義Ⅱ、情報特別講義Ⅲ		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T354
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ウェブアプリケーションキソ Webアプリケーション基礎		講義・演習	対面	高度 IT ビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	前期	必修	60	2	横田 一輝 杉谷 奨太
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	Java 言語を用い、サーバサイドプログラミングの基礎的事項を学習する。基本的なサーバサイドアプリケーションの制作ができることを目標とする。				
思考力・判断力・表現力	Web アプリケーション開発に必要なものやシステム構成が想像できるようになる。情報を取捨選択し、課題解決に近づくことができる。				
学びに向かう力	次のWeb アプリケーション応用編に備え、サーバサイドプログラミングの基本パターンをしっかりと身に着ける。				
授業の概要					
<p>授業では、パソコン上で実際にプログラムを作成することを重視する。</p> <p>1年次に学習した Java 言語を使用したサーバー側で動作するプログラムの開発の仕方を学習する。Java 言語の基礎知識を前提に授業を進めていくので予め、復習しておくことが望ましい。ネットワークやセキュリティの知識も必要となる3年生の核となる授業である。</p>					
成績評価基準					
授業内で実施する課題 (発表を含む)、出欠席等の状況による日常評価を対象とする。				課題	80%
				日常評価	20%
使用テキスト・教材					
スッキリわかるサーバレット&JSP入門 (インプレス)					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1. HTML と Web ページ		2	16. メイン画面の作成		2
2. Web の仕組み		2	17. ログアウト機能の作成		2
3. 開発環境整備 サンプル実行		2	18. 投稿・閲覧機能の作成		2
4. サーブレットの基礎		2	19. エラーメッセージ表示機能作成		2
5. JSP の基本		2	20. フレームワークとは		2
6. フォーム		2	21. Spring Boot を使う		2
7. フォームを使ったプログラムの作成		2	22. Lombok とは		2
8. MVC モデルと処理の遷移		2	23. Thymeleaf でフォーム操作		2
9. フォワード、リダイレクトプログラム		2	24. セッション操作		2
10. リクエストスコープ		2	25. データベースを使う		2
11. サンプルの実行		2	26. 入力された条件で検索する		2
12. セッションスコープ		2	27. 動的なクエリを実行する		2
13. アプリケーションスコープ		2	28. ページネーション		2
14. 章アプリケーション作成		2	29. DB を使ったサンプルアプリ		2
15. ログイン機能の作成		2	30. 設計手法の理解		2
その他			関連科目		
※単元ごと演習課題を実施する。 ※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T355
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ウェブアプリケーションオウヨウ Webアプリケーション応用		講義・演習	対面	高度ITビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	後期	必修	60	2	杉谷 奨太
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	企業の実践的教材を用いてシステム設計書に基づいたWebアプリケーションの開発を行う。実践的UMLから実際に開発ができることを目標とする。チームによる開発によってスケジュール管理やソース管理の方法を学ぶ。				
思考力・判断力・表現力	あらゆる角度からユーザビリティを考え、顧客要求事項とのバランスを保ちながら適切な画面遷移とそれを表現する技術を身に付ける。				
学びに向かう力	チーム開発の基本を知り、他者と協働して仕事を進めることを理解する。				
授業の概要					
「企業課題I」につながるような演習中心の授業を行う。UMLで記述された要件定義から外部、内部設計・プログラム設計部分を把握し実際に開発を進めていく。Java言語の基礎、HTML5、JavaScriptさらに前期で学習した「Webアプリケーション基礎」の知識が必要である。					
成績評価基準					
授業内で実施する課題(発表を含む)、出欠席等の状況による日常評価を対象とする。				課題	80%
				日常評価	20%
使用テキスト・教材					
企業様作成の教材					
授業内容・授業計画					
			時間数		
1. 教材内容説明 オリエンテーション			2		
2. 要件定義、外部設計の内容理解			6		
3. 内部設計の内容理解			6		
4. 開発			20		
5. レビュー			4		
6. ブラッシュアップ(機能追加)			8		
7. テスト			8		
8. まとめ			2		
9. 発表			4		
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。			Webアプリケーション基礎、企業課題演習		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T363
授業科目名		授業形態		学科・コース	
プログラムゲンゴヨン プログラム言語IV		講義・演習	対面	高度 IT ビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	前期	必修	60	2	寺尾 真二
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	C#言語を用いウィンドウズプログラミングの応用的な事項を学習する。DBにアクセスするアプリケーションプログラムの開発を目標とする。				
思考力・判断力・表現力	プログラム言語Ⅲで学習したC#の知識を応用して、データベースを活用するアプリケーションへの機能アップを目指す。				
学びに向かう力	DB、SQL、C#、ビジュアルプログラミングの知識を必要とするため、履修済みの関連科目を復習しながら受講する。				
授業の概要					
DB連携の各パターン（参照、登録、更新、削除）の機能を持ったアプリケーションを機能拡張・改善を繰り返しながら仕上げていく。最後に課題演習として総復習を行う。					
成績評価基準					
授業内で実施する課題の提出、出欠席等の状況による日常評価を対象とする。				課題	60%
				日常評価	40%
使用テキスト・教材					
授業内容・授業計画					
1. はじめに、必要ツール設定	時間数	4	7. 課題演習（実装、テスト）	14	
2. 参照機能		8			
3. 登録機能		10			
4. 更新機能		10			
5. 削除機能		6			
6. 参照機能強化（絞り込み、ページ処理）		8			
その他	関連科目				
※実務経験のある教員が担当する科目である。	プログラム言語Ⅲ				

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T369
授業科目名		授業形態		学科・コース	
セイギョプログラムキン 制御プログラム基礎		講義・演習	対面	高度 IT ビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	後期	必修	60	2	和田 弘
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	マイコン利用による制御プログラムについて理論・実習・グループ演習を通して学ぶ。				
思考力・判断力・表現力	プログラムの大きさに関わらず、試行錯誤しながら自分の考えを回路として構築する。				
学びに向かう力	自身の力で開発企画・プログラム作成・結果発表が行えることを目指す。				
授業の概要					
電子回路の基礎知識を学び、ハード回路の接続もできるようにする。 そのハードウェアを制御するプログラムを構築する。					
成績評価基準					
演習結果を含む提出課題、授業に臨む姿勢や出欠席等の状況による日常評価を対象とする。				課題	90%
				日常評価	10%
使用テキスト・教材					
ラズベリー・パイで遊ぼう (ラトルズ)、エントリーキット等 PC (各自持参要) にて下記HPを中心に授業を進め、課題提出等にも使用する。 [授業用 Web HP] http://www13.plala.or.jp/NTCSMSI/xdnj.html 、Teams					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1. 授業内容・目標確認・教材確認	2	16. 音を出す_Ch6-7	2		
2. 電子工作/部品/回路の基礎>1.1	2	17. 「PWM&ブザー」_Ch6-7	2		
3. ラズベリー・パイで遊ぼう_Ch1	2	18. 1-Wire (温度測定)_Ch6-8	2		
4. ラズベリー・パイを導入しよう_Ch2	2	19. I2C (気圧測定)_Ch6-9	2		
5. ラズベリー・パイの導入・環境設定_Ch2	2	20. I2C (LCD)_Ch6-10	2		
6. ラズベリー・パイを使ってみよう_Ch3	2	21. 机上説明_Ch6-11/12	2		
7. マルチメディアを楽しもう_Ch4	2	22. スマホでGPIO制御-1_Ch7	2		
8. 周辺機器を接続しよう_Ch5	2	23. スマホでGPIO制御-2_Ch7	2		
9. 電子回路入門	2	24. javascript 制御_Ch7-2/3/4	2		
10. 電子工作全般_Ch6-1/6-2	2	25. 机上 (リアル tweet)_Ch8-1	2		
11. LEDの点灯を制御しよう_Ch6-3	2	26. シャットダウンボタン_Ch8-2	2		
12. LEDを点灯させてみよう_Ch6-3+5	2	27. 人感センサー_Ch8-3	2		
13. SW&LED_Ch6-4+5	2	28. 予備日-1	2		
14. PWMでLED制御_Ch6-6	2	29. 予備日-2	2		
15. 「PWM&LED」_Ch6-6	2	30. 基礎編のまとめ、応用編の準備	2		
その他		関連科目			
※单元ごと演習課題を実施する。 ※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T371
授業科目名		授業形態		学科・コース	
モバイルプログラムキン		講義・演習	対面	高度 IT ビジネス科	
モバイルプログラム基礎					
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	後期	必修	60	2	横田 一輝
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	VS. CODE などの IDE でFlutter を使い、モバイルプログラミングの基礎的事項を学習する。Dart 言語を使い、基本的なモバイルアプリケーションの制作ができることを目標とする。				
思考力・判断力・表現力	実用的なモバイルアプリケーションが想像できるようになる。動作確認を行いながらプログラミングを進めることができる。				
学びに向かう力	次期モバイル応用編に備え、モバイルプログラミングの基本パターンをしっかりとし身に着ける。				
授業の概要					
マルチプラットフォーム対応の開発環境を使用。授業では、PC 上でモバイルアプリのプログラムを作成し、エミュレータを介して実行する。最後に課題を課すので、納期までに提出が義務付けられる。トライ&エラーが大切です。動作確認しながらプログラミングを覚えよう。					
成績評価基準					
授業内で実施する課題 (発表を含む)、出欠席等の状況による日常評価を対象とする。				課題	80%
				日常評価	20%
使用テキスト・教材					
Flutter で始めるはじめてのモバイルアプリ開発 (技術評論社)					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1. フレームワークとマルチプラットフォーム	2	9. ウィジェットについて	4		
2. Flutter アプリ開発の基礎知識	2	10. メインページのカスタマイズ	4		
3. Flutter と Android Studio のインストール	4	11. リストを作成する	6		
4. Android Studio の基本操作	2	12. パッケージの活用	4		
5. Dart の概要	2	13. アニメーション	4		
6. 画面レイアウトの基礎	2	14. ページ遷移	4		
7. デバイスの設定	2	15. モバイルアプリケーションの作成	6		
8. デモアプリのカスタマイズ	4	16. 課題演習	8		
その他		関連科目			
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T374
授業科目名		授業形態		学科・コース	
インフラコウチクエンシュウ ----- インフラ構築演習		講義・演習	対面	高度 IT ビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	前期	必修	60	3	植松 甫
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	これまでに単体で学習してきたサーバ、ネットワーク機器の設計、構築演習を組み合わせてインフラ全体の設計、構築ができるようになる。				
思考力・判断力・表現力	各種ドキュメントを理解し、構築・テストまでできるようになる。				
学びに向かう力	課題管理、スケジュール管理、適切なタイミングでのエスカレーションを自主的に行うことができるようになる。				
授業の概要					
ユーザからインフラ構築依頼を受けたことを前提に、実際にサーバ設計・構築、ネットワーク設計・構築、トラブルシュートをケーススタディ形式で実施する。					
成績評価基準					
授業内で実施する課題、出欠席等の状況による日常評価を対象とする。				課題	60%
				日常評価	40%
使用テキスト・教材					
インフラシステム構築演習 (インフォテック・サーバ)、教員が作成したプリント					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1. 要件確認		2	11. ネットワーク構築		2
2. サーバ基本設計書の作成		2	12. ネットワーク障害試験		2
3. サーバ詳細設計書の作成		2	13. ネットワーク障害試験②		2
4. サーバ構築手順書の作成		2	14. 障害の調査と復旧		2
5. ドキュメントレビュー		2	15. 対応経緯報告書の作成		2
6. サーバ構築		2			
7. サーバテスト (単体・結合)		2			
8. ルータ基本設計書の作成		2			
9. 投入コンフィグの作成		2			
10. ドキュメントレビュー		2			
その他	関連科目				
※積極的な演習参加が望ましい。 ※実務経験のある教員が担当する科目である。	ネットワーク基礎、ネットワーク応用、ネットワーク演習、サーバ基礎、サーバ応用、サーバ演習				

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T375
授業科目名		授業形態		学科・コース	
キギョウカダイエンシュウ ----- 企業課題演習		講義・演習	対面	高度 IT ビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	後期	必修	120	4	横田 一輝 杉谷 奨太
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	企業様より課題を頂き、プロジェクト単位に依頼された課題を納品する。システム開発を要件定義から納品までを一通り経験することを目標とする。				
思考力・判断力・表現力	グループ作業によって協調性を身に着ける。 提案ができるようになる。人の意見を尊重できるようになる。				
学びに向かう力	メンバーとの協業によって、問題解決ができるようになる。				
授業の概要					
「Web アプリケーション応用」の演習を参考に課題に取り組んでください。また、今まで学習した知識を活用し、与えられた課題に対しプロジェクトを編成し、実際にシステム開発を行います。現場に赴きアンケートを実施したり、ユーザとレビューを実施したり定期的に指導教員に進捗状況の報告などを行ってください。					
成績評価基準					
授業内で実施する課題（発表を含む）、出欠席等の状況による日常評価を対象とする。				課題	90%
				日常評価	10%
使用テキスト・教材					
各々、制作に必要なテキスト					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1. オリエンテーション		2	10. テスト		16
2. 要件定義		8	11. レビュー		4
3. 外部設計		8	12. デプロイ 移行		2
4. レビュー		4	13. まとめ		4
5. 内部設計		8	14. 発表		4
6. 中間発表・レビ		8			
7. プログラム設計		12			
8. レビュー		4			
9. 開発		36			
その他	関連科目				
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T378
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ジョウホウトクベツコウギサン 情報特別講義Ⅲ		講義	対面	高度 IT ビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	前期	必修	120	4	植松 甫 寺尾 真二、渡邊 尚明
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、高度情報技術者試験等において合格を目指す。				
思考力・判断力・表現力	これまで学んだ様々な科目の知識をまとめながら、知識を習得する。				
学びに向かう力	合格するために忍耐強く努力することができるようになる。				
授業の概要					
対策授業は決して楽な勉強ではない。しかし、資格合格を目指すという強い意志を持って勉強に臨んでほしい。また、本講義はこれまでに学んだすべての科目の総まとめの意味を持っておりそれぞれの科目の知識がしっかり繋がることで、より深く理解できることを期待する。					
成績評価基準					
出欠席および合格を目指す姿勢・学習意欲を踏まえた日常評価を対象とする。				日常評価	100%
使用テキスト・教材					
各種情報技術者試験問題集					
授業内容・授業計画					
1. 問題演習・対策授業		時間数	120		
その他			関連科目		
			情報特別講義Ⅱ、情報特別講義Ⅰ		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T404
授業科目名		授業形態		学科・コース	
コミュニケーションカレッジ コミュニケーション活動IV		講義・演習	対面・ メディア	高度ITビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
4	通年	必修	30	1	植松 甫
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	学校行事や就職活動など、通常の科目の学習を越えた活動を行うことで様々な経験をすることができる。				
思考力・判断力・表現力	校外での集団行動や協働作業を通じ、コミュニケーション力やチームで活動する力を身につける。				
学びに向かう力	コミュニケーションを取りながら、活動がスムーズに完了するよう自ら考えられるようになる。				
授業の概要					
毎日の挨拶や授業、さらに始業式、終業式、卒業研究発表会、就職ガイダンスといった行事などが円滑に遂行できるように割り当てられた授業である。余剰時間が発生した場合は資格試験対策の授業に割り当てることもある。					
成績評価基準					
出欠席等の状況による日常評価を対象とする。				日常評価	100%
使用テキスト・教材					
必要に応じて補助プリントを配布					
授業内容・授業計画					
			時間数		
1. オリエンテーション			4		
2. 成績発表			4		
3. 防災訓練			4		
4. 卒業研究発表会			8		
5. 卒業発表			4		
6. 資格試験対策			6		
その他	関連科目				

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T433
授業科目名		授業形態		学科・コース	
リスクマネジメント		講義	対面	高度 IT ビジネス科	
リスクマネジメント					
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
4	後期	必修	30	2	植松 甫
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	リスクに関する基本的な知識を習得し、リスクに対するケーススタディを通して、対応・予防・再発防止の履行スキルを養う。				
思考力・判断力・表現力	リスクマネジメントの原理原則に即した正しい判断ができる。				
学びに向かう力	リスクに対する考え方の目的や背景まで踏まえて、今日の社会状況と照らし合わせながら、自分なりの考えを述べる事が出来る。				
授業の概要					
<p>リスクは仕事や生活の至るところに潜んでおり、その種類も多岐にわたるため、各種に応じたマネジメントが必要となる。本科目ではリスクマネジメントに関わる基礎的な知識を習得した後にリスクの種類に応じたマネジメントの在り方を学習する。</p> <p>また、リスクに関するケーススタディを持って、何事も自分事として捉える思考を養う。</p>					
成績評価基準					
期末に実施する筆記試験およびケーススタディを使った討論の発表等を日常評価とする。				筆記試験	80%
				日常評価	20%
使用テキスト・教材					
産業能率大学配本テキスト：リスクマネジメントの基本と実践 (産業能率大学 2024)					
産業能率大学配本テキスト：リスクマネジメントのケーススタディ (産業能率大学 2024)					
授業内容・授業計画					
			時間数		
1.	リスクマネジメントの意義と重要性		4		
2.	リスクマネジメントのプロセス		4		
3.	①職場でのリスクマネジメント		4		
4.	ケーススタディ①		2		
5.	②業務のリスクマネジメント		4		
6.	ケーススタディ②		2		
7.	③情報管理のリスクマネジメント		4		
8.	ケーススタディ③		2		
9.	④事件・事故等のリスクマネジメント		2		
10.	ケーススタディ		2		
その他			関連科目		
			産業能率大学開講科目「リスクマネジメントの基本」に相当する。		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T434
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ビジネスリソリ ビジネス倫理		講義	対面	高度ITビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
4	後期	必修	30	2	植松 甫
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	ビジネス社会におけるビジネス倫理の位置づけと概念、様々な理論や考え方を理解できる。				
思考力・判断力・表現力	実際の様々な問題、利益追求と倫理の関係等について課題を提示でき、解決策やその考えに至ったプロセス等を表現できる。				
学びに向かう力	日々の生活・家庭・個人においても、自分なりのビジネス倫理観を確立して使用することができる。				
授業の概要					
企業の不祥事が頻発する今日、ビジネス倫理（企業倫理）が厳しく問われる時代となった。世の中も企業・個人の倫理観を育てる取り組みに目を向けるようになってきている。本科目では、ビジネス倫理がなぜ重要なのかを学習しながら、ビジネスパーソンとしての正しい行動とはどのようなものかを考える。また、自らの倫理観を確立することを目標とする。					
成績評価基準					
期末に実施する筆記試験、出欠席状況および授業への参画度による日常評価を対象とする。				筆記試験	80%
				日常評価	20%
使用テキスト・教材					
産業能率大学配本テキスト：働く人が知っておきたいビジネス倫理（産業能率大学出版部）					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1. 幸福論（人つきあい）	2	9. いじめ問題	2		
2. 幸福論（会社内）	2	10. 引きこもり問題	2		
3. モノからコトへ	2	11. 認知症と介護問題	2		
4. うつ病	2	12. 恋愛論	2		
5. 現代型うつ秒	2	13. 自由放任主義	2		
6. 癌治療	2	14. 功利主義	2		
7. 行動経済	2	15. 定言命法（カント哲学）	2		
8. 振り返り①	1	16. 振り返り②	1		
その他	関連科目				
	産業能率大学開講科目「ビジネス倫理」に相当する。				

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T448
授業科目名		授業形態		学科・コース	
キギョウインシデントソウロン ----- 企業インシデント総論		講義・演習	対面	高度 IT ビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
4	後期	必修	30	2	岡部 泰幸
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	インシデントが発生した際の基本対応プロセスを理解する。 各プロセスで必要となる対応、特に初動対応について知識を習得する。				
思考力・判断力・表現力	情報セキュリティに関するインシデントが発生した際に、個人がすべきこと、組織がすべきことを判断して、適切な対応が取れるようになる。				
学びに向かう力	情報セキュリティインシデントを自分事として捉え、自身の身の周りで起こった場合を想定することで、学んだことを活かせるようにする。				
授業の概要					
情報漏洩を中心とした人的要因から発生するセキュリティ事故が後を絶たない。本科目では、そもそもなぜ情報セキュリティ事故は起こるのかを考えると共に、初動の良し悪しで事故の対応難度に差が出てくることを学ぶ。また、インシデントという言葉の意味を再確認し、企業で働く者として適切なセキュリティ事故対応ができるようにすることを目的とする。					
成績評価基準					
課題の提出状況、授業毎の小レポートの提出状況、出欠席を含む授業内態度で評価する。				課題	40%
				レポート	40%
				日常評価	20%
使用テキスト・教材					
担当教員のオリジナル教材を使用。					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1. サイバー防災訓練の説明		6	11. 期末課題 (発表会)		2
2. インシデント対応①事前知識の確認		2			
3. インシデント対応②検知・受付		2			
4. インシデント対応③トリアージ		4			
5. インシデント対応④証拠保全		2			
6. インシデント対応⑤封じ込め・根絶①		2			
7. インシデント対応⑥封じ込め・根絶②		4			
8. インシデント対応⑦復旧措置・再発防止		2			
9. インシデント対応⑧報告・公表		2			
10. インシデント対応⑨事後対応		2			
その他	関連科目				

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T456
授業科目名		授業形態		学科・コース	
クラウドギジュツ クラウド技術		講義・演習	対面	高度 IT ビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
4	後期	必修	60	2	寺尾 真二
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	仮想化技術、クラウドサービスについての知識を得る。 AWS を活用した設計、構築ができるようになる。				
思考力・判断力・表現力	クラウドを利用するメリットを理解し、適切な提案ができるようになる。 ビジネスにおけるクラウド活用について、主体的に考えられるようになる。				
学びに向かう力	今まで構築してきたオンプレミスの環境をクラウドに置き換えるために、どのような準備が必要か考えることができるようになる。				
授業の概要					
仮想化技術やクラウドサービスの基礎的な知識を学んだうえで、世界3大クラウドと言われるAWSについて基本的な知識を習得する。そして、実際にクラウド環境で業務を遂行するITエンジニアが必要とされる設計、構築技術を学ぶ。AWSに関する演習時間は積極的な授業参画姿勢が望ましい。					
成績評価基準					
授業内で実施する課題およびAWSラボによる学習状況、授業参画度合を評価の対象とする。				課題	80%
				日常評価	20%
使用テキスト・教材					
AWSAcademy教材、担当教員が作成したオリジナル教材					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1. クラウドのコンセプトの概要	4	11. 期末課題		4	
2. クラウドエコノミクスと請求	4				
3. AWSグローバルインフラストラクチャの概要	4				
4. AWSクラウドのセキュリティ	6				
5. ネットワークとコンテンツ配信	8				
6. コンピューティング	10				
7. ストレージ	3				
8. データベース	6				
9. クラウドアーキテクチャ	5				
10. AutoScalingとモニタリング	6				
その他	関連科目				
※単元ごと演習課題を実施する。 ※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T457
授業科目名		授業形態		学科・コース	
エーアイアルゴリズム		講義・演習	対面	高度 IT ビジネス科	
AI アルゴリズム					
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
4	後期	必修	30	2	植松 甫
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	進化的アルゴリズムの仕組みと動作原理を理解し、簡易な GA を設計・実装できる力を身につける。				
思考力・判断力・表現力	進化の過程や結果を比較・分析し、戦略やパラメータの違いを根拠と共に説明・考察できる力を育成する。				
学びに向かう力	探索や協力などの現象を自ら探究し、失敗を踏まえて試行錯誤し続ける主体的な学びの姿勢を育てる。				
授業の概要					
<p>遺伝的アルゴリズム (GA) を中心に、進化的計算の基礎と AI アルゴリズムの考え方を学ぶ。回答や応答精度が向上することを意図した進化の3要素や個体群の振る舞いを、体験・プログラミング・分析を通して理解する。OneMax 問題による実装演習や、反復囚人のジレンマを用いた戦略進化も扱い、探索・協力・多様性の本質を考察する。途中、Java ベースのプログラミングも行う。</p>					
成績評価基準					
<p>プログラミング演習課題、講義を受けての考察レポート、授業への参画度合の3点で、総合的に評価する。</p>				課題	40%
				レポート	40%
				日常評価	20%
使用テキスト・教材					
担当教員のオリジナル教材					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1. AI の歴史・GA 誕生のストーリー	2	11. OneMax 問題 ②Java で GA を動かす	2		
2. GA の長短と探索 vs 時間	2	12. OneMax 問題 ③パラメータと実験	2		
3. 個体群のメリットと探索の広がり	2	13. 最適化と計算コスト、探索の限界	2		
4. ビット遺伝子(0 と 1)で表す生命個体	2	14. 囚人のジレンマと進化戦略	2		
5. 進化の3要素 ①選択	2	15. 進化する AI の未来とまとめ	2		
6. 進化の3要素 ②交叉	2				
7. 進化の3要素 ③突然変異	2				
8. GA の総まとめ、GA 全体像の可視化	2				
9. 最適解と局所解、山登り問題と収束	2				
10. OneMax 問題 ①概要と進化挙動の理解	2				
その他	関連科目				
	AI 演習				

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T458
授業科目名		授業形態		学科・コース	
エーアイエンシュウ AI 演習		講義・演習	対面	高度 IT ビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
4	後期	必修	30	2	立花 俊輔
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	AI (特に深層学習) について、なぜうまくいくのか中身を理解する				
思考力・判断力・表現力	AI の仕組みを理解することにより、AI を利用するために必要なリソース、出力の正確性、AI を利用した際のリスクを学習する				
学びに向かう力	AI が一般化された現代社会において、AI の仕組みを理解し、正しく使いこなすことが出来る人材を育成する				
授業の概要					
<p>授業ではまずは「AI とは？」からスタートします。 Python を利用して AI (ディープラーニング) プログラムを作成しながら理論を学びます。</p>					
成績評価基準					
<p>授業内で実施する課題、出欠席等の状況による日常評価を対象とする。 必須課題が提出されない場合は不可とする。</p>				課題	80%
				日常評価	20%
使用テキスト・教材					
AI 活用についての教材は企業様作成の教材を利用。					
授業内容・授業計画					
			時間数		
1.	イントロダクション		2		
2.	NumPy 基礎		4		
3.	パーセプトロン		6		
4.	ニューラルネットワーク		6		
5.	ニューラルネットワークの学習		8		
6.	畳み込みニューラルネットワーク		4		
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T464
授業科目名		授業形態		学科・コース	
プログラムゲンゴゴ		講義・演習	対面	高度 IT ビジネス科	
プログラム言語V					
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
4	前期	必修	60	2	横田 一輝
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	Python 言語の基本文法を習得し、既存習得言語との違いを知る。 実用的なプログラミング技術に繋がるコーディングスキルを身に着ける。				
思考力・判断力・表現力	Python 言語を使ってライブラリと連携することを意識し、後学となる AI を操作するプログラミングができるようになる。				
学びに向かう力	必要なライブラリを自由に扱えるようになり、自身が想像する実現困難な表現を Python プログラミングで可能にする。				
授業の概要					
Python の基本文法を習得し、後学となる AI (ディープラーニング) プログラムを作成できるようにすることが目標である。Python 言語をある程度操れるようになることはもちろんだが、様々なライブラリを介して、実現困難な内容も可能にできることを学び、IT には無限の可能性を知ってもらいたい。					
成績評価基準					
授業内で実施する課題と出欠席等の日常評価を対象とする。				課題	80%
				日常評価	20%
使用テキスト・教材					
作りたいものがない人のための Python 入門 (講談社)					
授業内容・授業計画					
1. Python 基礎			時間数	11. 演習	8
2. データ型と変数			4		
3. 入力を受け付けて計算する			4		
4. if 制御文			4		
5. while 制御文			4		
6. オブジェクトと繰り返し			6		
7. モジュールと関数			6		
8. 組み込み関数			6		
9. Web スクレイピングプログラム			8		
10. 手書き文字認識プログラム			6		
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。			AI 演習		

シラバス (授業概要)	時間数は45分換算	年度	2026年度
		科目コード	NJB26T467

授業科目名		授業形態		学科・コース	
サーバエンシェウ サーバ演習		講義・演習	対面	高度ITビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
4	前期	必修	60	2	寺尾 真二

授業の目的・目標 (科目のねらい)

知識・技能	LinuC レベル1 (主に102分野) 相当の知識と技能を得る。
思考力・判断力・表現力	必要な情報を自ら調べ、習得することができるようになる。
学びに向かう力	資格取得に向け、忍耐強く努力することができるようになる。

授業の概要

LinuC レベル1 (102 分野) の取得に向けての学習を行う。授業では102 分野を中心に全ての範囲を網羅しつつ、実際にLinux を搭載した仮想マシンを利用しながら学習する。章ごとに章末問題やLinuC 公式問題をこなす時間をとり、資格取得に向けた準備をする。

成績評価基準

日頃の課題、LinuC 模擬試験、LinuC 試験の結果を評価の対象とする。	本試験	60%
	模擬試験	30%
	課題	10%

使用テキスト・教材

最短突破 LinuC レベル1 バージョン 10.0 合格教本 [101 試験, 102 試験対応] 改訂新版 (技術評論社)

授業内容・授業計画

	時間数		時間数
1. ブートプロセスと systemd	2	16. Debian パッケージ管理	2
2. プロセスの生成・監視・終了	2	17. yum コマンドによるパッケージ管理	2
3. デスクトップ環境の利用	2	18. RPM パッケージ管理	2
4. LiniC101 1 章練習問題	2	19. LinuC101 4 章練習問題	2
5. 基本的なファイル管理の実行	2	20. ハードウェアの基本知識と設定	2
6. ファイルの所有者とパーミッション	2	21. HDD/SSD のレイアウト	2
7. ファイルの配置と検索	2	22. ファイルシステムの作成・管理	2
8. LinuC101 2 章練習問題	2	23. LinuC101 5 章練習問題	2
9. コマンドラインの操作	2	24. 模擬試験	2
10. フィルタを使ったテキストストリーム処理	2	25. シェル環境のカスタマイズ	2
11. ストリーム、パイプ、リダイレクトの利用	2	26. シェルスクリプト	2
12. 正規表現を利用したテキストファイル検索	2	27. インターネットプロトコルの基礎	2
13. 基本的なファイル編集の実行	2	28. アカウント管理	2
14. LinuC101 3 章練習問題	2	29. ジョブ管理	2
15. apt コマンドによるパッケージ管理	2	30. システム時刻の保守	2

その他

※单元ごと演習課題を実施する。

関連科目

サーバ基礎、サーバ応用

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T470
授業科目名		授業形態		学科・コース	
セイギョプログラムオウヨウ 制御プログラム応用		講義・演習	対面	高度 IT ビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
4	前期	必修	60	2	和田 弘
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	マイコン利用による制御プログラムについて理論・実習・グループ演習を通して学ぶ。				
思考力・判断力・表現力	成果物を制作しながら、試行錯誤を繰り返して自分の考えを回路として構築する。				
学びに向かう力	自身の力で開発企画・プログラム作成・結果発表が行えることを目指す。				
授業の概要					
基礎編の総復習を行い、全員のスキルレベルあわせを行う。ラジコンカーの制御プログラムにより「動作制御」の基本を学ぶ。グループ演習により「企画力」「チームワーク力」を養う。					
成績評価基準					
原則、授業態度、課題提出、演習結果提出、グループ作業等を総合評価した上で決定する。				課題	90%
				日常評価	10%
使用テキスト・教材					
ラズベリー・パイで遊ぼう (ラトルズ)、エントリーキット、ラジコンカー等 PC (各自持参要) にて下記 HP を中心に授業を進め、課題提出等にも使用する。 [授業用 Web HP] http://www13.plala.or.jp/NTCSMSI/xdnj.html 、Teams					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1. 授業内容・教材確認・基礎復習	2	16. 仕様書作成-3	2		
2. 基礎の復習 (GPIO) _Ch7	2	17. 設計書作成-1	2		
3. 基礎の復習 (PWM) _Ch6-6	2	18. 設計書作成-2	2		
4. 基礎の復習 (1-Wire) _Ch6-8	2	19. 設計書作成-3	2		
5. 基礎の復習 (I2C) _Ch6-9	2	20. プログラミング-1	2		
6. 演習制御の準備	2	21. プログラミング-2	2		
7. ドキュメントの書き方	2	22. プログラミング-3	2		
8. 演習制御プログラム-1	2	23. テスト・修正-1	2		
9. 演習制御プログラム-2	2	24. テスト・修正-2	2		
10. 演習制御プログラム-3	2	25. テスト・修正-3	2		
11. 演習制御プログラム-4	2	26. 報告資料作成-1	2		
12. 演習制御プログラム-5	2	27. 報告資料作成-2	2		
13. グループ分け・課題説明	2	28. 報告資料作成-3	2		
14. 仕様書作成-1	2	29. 発表会-1	2		
15. 仕様書作成-2	2	30. 発表会-2	2		
その他	関連科目				
※単元ごと演習課題を実施する。 ※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T472
授業科目名		授業形態		学科・コース	
モバイルプログラムオウヨウ モバイルプログラム応用		講義・演習	対面	高度 IT ビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
4	前期	必修	60	2	横田 一輝
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	モバイルプログラミング基礎で学習した内容を応用し、WebAPI、クラウド、センサー、オープンデータ等を利用したアプリの制作ができる。				
思考力・判断力・表現力	開発ツールを限定せずに、現在主流となっているいくつかの開発環境を体験することで実践的なモバイルアプリの制作に繋げる。				
学びに向かう力	実用的かつ自身が役立つと思うモバイルアプリケーションの制作ができる。				
授業の概要					
授業では、モバイル機器に実装されている機能の利用以外に、Web 上で提供される API やオープンデータを利用するアプリの作成を重視する。定期的に課題を課すので、納期までに提出が義務付けられる。いくつかの開発環境を体験し、動作確認しながらプログラミングを覚えること。					
成績評価基準					
授業内で実施する課題（発表を含む）、出欠席等の状況による日常評価を対象とする。				課題	80%
				日常評価	20%
使用テキスト・教材					
Flutter で始めるはじめてのモバイルアプリ開発 (技術評論社)					
授業内容・授業計画					
			時間数		
1. Flutter 開発振り返り			8		
2. 応用的なアプリケーション開発について			8		
3. JSON データの活用			8		
4. Android Studio 以外の開発環境演習			8		
5. API 活用			8		
6. 課題テーマ策定&課題演習			20		
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。			モバイルプログラム基礎		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T479
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ジョウホウトクベツコウギヨン 情報特別講義IV		講義・演習	対面	高度 IT ビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
4	前期	必修	30	2	横田 一輝
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	最先端の情報技術を調査し、現代社会に活用されている場面やその実用的な活用方法について知る。				
思考力・判断力・表現力	最先端の情報技術から、今後どのような便利な未来が予想されるか考えることができ、実現可能性を考慮した設計および簡単なプロトタイプが作れる。				
学びに向かう力	これから IT 業界に身を置く自分自身の未来を考え、業界内で生き残るために必要な技術や世の中の動向に目を向け続ける精神を養う。				
授業の概要					
最先端の情報技術動向を知ることは今後 IT 業界に身を置く者にとって重要な業務の一部である。本科目では現代社会で活用されている最先端の情報技術を調査し、実用的な場面を捉えながら応用・発展が可能と思われるアイデアを具現化することを目的とする。これまでに習得した技術を使って実現に繋がる設計やプロトタイプを作成し、発表を通して説得力のある企画をお互いに評価し合う。					
成績評価基準					
自ら調査した内容の発表、調査学習の関するレポート (プロセス成果物) および出欠席と授業参画度合を日常評価として総合的に評価する。				発表	40%
				レポート	40%
				日常評価	20%
使用テキスト・教材					
担当教員のオリジナル教材を使用					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1. 授業説明・イントロダクション		2			
2. 最新技術動向調査・調査結果資料作成		4			
3. 中間発表会		2			
4. 最新技術を用いた ICT 設計・企画立案		6			
5. 技術エビデンス収集・実現可能性模索		4			
6. 全体設計図作成		2			
7. 簡易プロトタイプ制作		6			
8. 最終発表会		4			
その他		関連科目			

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T480
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ソツギョウセイサク イチ 卒業制作 I		演習	対面	高度 IT ビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
4	前期	必修	120	3	植松 甫 寺尾 真二 横田 一輝
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	卒業制作Ⅱの前段階として、企画、設計、開発の一連の流れを経験する。				
思考力・判断力・表現力	発生した課題について、どのようなアプローチで解決していくか道筋を考え、実際に解決することができるようになる。				
学びに向かう力	スケジュール管理、課題管理を自分で行い、適切なタイミングで報告連絡相談ができるようになる。				
授業の概要					
卒業制作Ⅱの前段階として、3年間学習した知識を基に一から制作に携わる。各分野の専門の講師が代わるがわりに指導に入る予定である。本授業の延長上として大目標である卒業制作Ⅱを見据えること。					
成績評価基準					
課題（中間成果物）を評価の対象とする。				課 題	100%
使用テキスト・教材					
なし					
授業内容・授業計画					
1. 各種作業 技術調査・企画立案・設計（書）・ 構築・稼働検証・考察		時間数	120		
その他		関連科目			
		卒業制作Ⅱ			

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26T481
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ソツギョウセイサクニ 卒業制作II		演習	対面	高度ITビジネス科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
4	後期	必修	240	6	植松 甫 寺尾 真二 横田 一輝
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	今まで学習した内容を活かして、各自でテーマを決めて制作・開発を行う。				
思考力・判断力・表現力	発生した課題について、どのようなアプローチで解決していくか道筋を考え、実際に解決することができるようになる。				
学びに向かう力	スケジュール管理、課題管理を自分で行い、適切なタイミングで報告連絡相談ができるようになる。				
授業の概要					
制作・開発した内容を卒業論文として期限までに提出を義務付ける。中間審査も同様とし、日報また、卒業制作発表会で自身の成果を発表する。					
成績評価基準					
成果物の出来栄え、論文、発表内容、日常の制作に取り組む姿勢で総合的に評価。				成果物	25%
				論文	25%
				発表内容	25%
				日常評価	25%
使用テキスト・教材					
なし					
授業内容・授業計画					
1. 制作作業 前期の続きを行う場合は追加機能の企画立案 技術調査・企画立案・設計(書)・構築・稼働検証・考察・論文執筆		時間数	240		
その他			関連科目		
			卒業制作I		